

S2章 複主体・複主語

日本語に存在する複主体（文中での複主語）について説明します。

S2.1 複主体・複主語 (42)

- hs① 本属複主体 (本主体, 属性主体) (42)
 疲れる文 (因果の複主体) (43)
- hs② 感覚複主体 (感覚主体, 帯感主体) (44)
- hs③ 態複主体 (動詞主体, 態主体) (45)
- hs④ 時場複主体 (主体, 時場主体) (46)
- hs⑤ テアル複主体 (動詞主体, 客格主体) (47)
- hs⑥ 数量複主体 (主体, 数量主体) (48)

S2.1 複主体・複主語

19章～21章, C1.7

1つの属性に2つの主体A, Bが立つとき, この主体を「複主体」といい, これが文になると「複主語」となります。8種類に分類します。

表S2-1 複主体

連番	複主体名	複主体		複主語の例
hs①	本属複主体	本主体	属性主体	象は鼻が長い
hs②	感覚複主体	感覚主体	帯感主体	私は故郷が懐かしい
hs③	態複主体	動詞主体	態主体	彼は納豆が食べられる
hs④	時場複主体	主体	時の主体/場の主体	彼は経済が明るい
hs⑤	テアル複主体	動詞主体	客格主体	彼は宿題がしてある
hs⑥	数量複主体	主体	数量主体	学生が3人走る

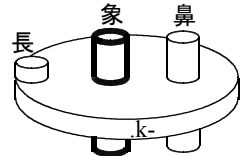
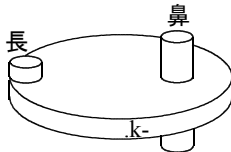
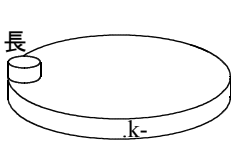
hs① 本属複主体

本主体 属性主体

本主体の属性は単位構造。本主体は太線で表示します。

本主体と属性主体の間には親子関係・所有関係等の何らかの明瞭な関係が必要です。この関係のない「富士山の1は指が白い。」という文は意味がわかりません。

形容詞の場合

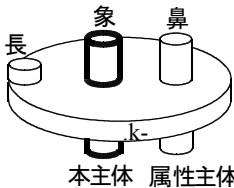


図S2-1 長い(naga.k-)

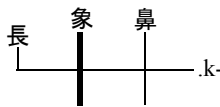
図S2-2 鼻が長い(単位構造)

図S2-3 象が鼻が長い

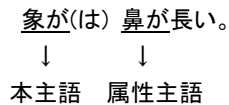
「象が(は)鼻が長い」の構造では, 「象」という主体が「鼻が長い」という単位構造(主体と属性からなる構造)を属性としています。「鼻」は属性を構成する主体なので, 「属性主体」とよびます。「象」は本来の主体なので「本主体」とよびます。



図S2-4 本主体と属性主体

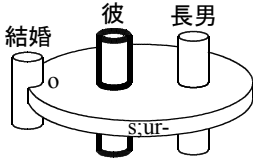


図S2-5 簡略表示

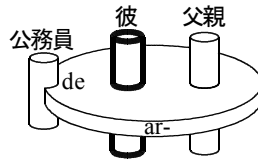


図S2-6 本主語と属性主語

動詞・断定基の場合



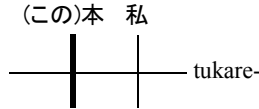
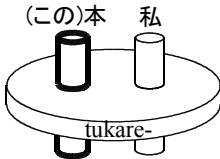
図S2-7 彼₀₁は長男が結婚=S-



図S2-8 彼₀₁は父親が公務員=de=ar-

疲れる文 「因果の複主体」 本主体が原因で、属性が結果です。

「この本₀₁は疲れる。」という文で、疲れるのは「本」ではなく「私」です。



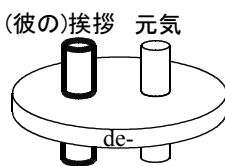
原因：(この)本
結果：私が疲れる

図S2-9 (この)本₀₁は(私が)疲れる(る) 図S2-10

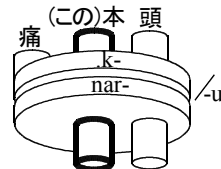
本主体「本」が属性「私が疲れる」の原因となって構造(文)が成立しています。これを「因果の複主体」構造とよびます。基本的に「彼₀₁は長男が結婚する。」と同じ構造ですが、この構造の「本」と「私」には明瞭な関係は必要ありません。

「疲れる」のが本主体の「本」ではなく属性主体の「私」であることが自明の場合には属性主体(私)が省略可能です。「たばこの₀₁は(人間が)肺がんになる／サッカー₀₁は(私たちが)興奮する」も()内の属性主体が省略されます。

これに対して、「彼の挨拶₀₁は元気が出る／この本₀₁は頭が痛くなる」の場合には意味がわからなくなりますので、属性主体(元気, 頭)の省略はしません。



図S2-11 (彼の)挨拶₀₁は元気が出る(る)



図S2-12 (この)本₀₁は頭が痛くなる(る)

問S2-1 「彼は髪が伸びた／彼は口が重い／彼は歌が上手だ」を説明してください。

問S2-2 「メロンは甘い／メロンは喜ぶ」の構造上の違いを説明してください。

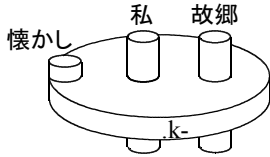
問S2-3 「田中さんは疲れる。」という文の二義性を説明できますか。

hs② 感覚複主体

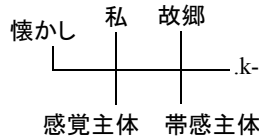
感覚主体 帯感主体

形容詞の場合

「私の₁は故郷が懐かしい。」というとき、「私」は「懐かしい」という感覚を持つ「感覚主体」で、「故郷」は「私」にとって「懐かしい」という感覚を帯びた「帯感主体」です。「感覚主体」は基本的に一人称(発話者)です。感情形容詞が属性になります。



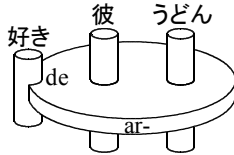
図S2-13 私の₁は故郷が懐かしい



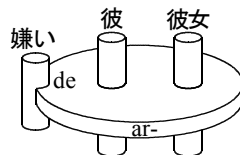
図S2-14

断定基の場合

「彼の₁はうどんが好きだ。」では、「彼」が感覚主体、「うどん」が帯感主体です。



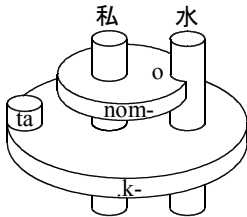
図S2-15 彼の₁はうどんが好きだ



図S2-16 彼の₁は彼女が嫌いだ

「彼の₁は彼女が嫌いだ。」では、「彼」と「彼女」のいずれが感覚主体であるかによる二義が発生します。断定基の場合は「感覚主体」は一人称とは限りません。

～シタイの場合



図S2-17 私の₁は水が／を飲みたい

この構造では「私が水を飲む」という構造の下に「ta.k-」という複主体構造があります。

「ta.k-」は上にある構造の内容が現実世界に実現することを発話者が願望していることを表します。感覚主体は一人称(発話者・私)です。

論理関係重視なら「水を飲みたい」となり、願望重視なら「水が飲みたい」となります。

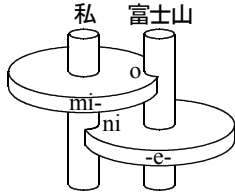
問S2-4 「私はこの映画がおもしろい／この映画はおもしろい」の違いは何ですか。

hs③ 態複主体

動詞主体(行為主体) 態主体

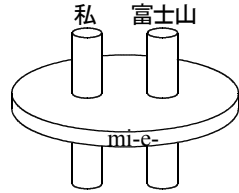
態の関わる構造には「動詞の主体」と「態の主体」の2つの主体が存在します。属性が一体化するよう感じられると、これが複主体になります。

許容態



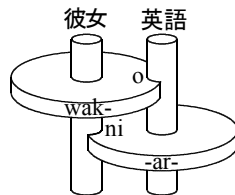
図S2-18 私に(は)富士山が見える

属性一体化



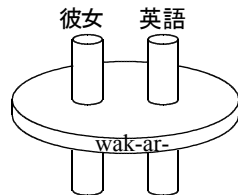
図S2-19 私₀₁は富士山が見える

受影態



図S2-20 彼女に(は)英語がわかる

属性一体化

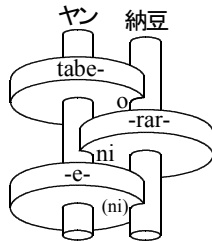


図S2-21 彼女₀₁は英語がわかる

「wak- 分く」という古語の動詞は「理解する」の意味です。

「儲かる mauk-ar-」「(大学に)受かる uk-ar-」などもこの形です。

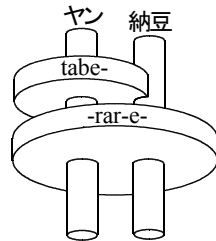
受影基



ヤンさんに(は)納豆が食べられる

図S2-22

属性一体化



ヤンさん₀₁は納豆が食べられる

図S2-23

問S2-5 「鈴木さんが見えた。」の2つの意味について説明してください。

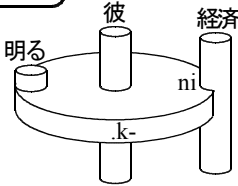
問S2-6 「英語が読める。」の文で「英語」が主語になる理由を説明してください。

hs④ 時場複主体

主体 時の主体／場の主体

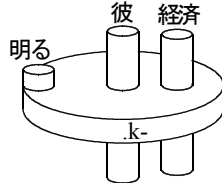
「明日／経済」等の「時／場」を表す実体は本来「に格・の2格」にあります。属性が状態性のとき、時や場が「その状態を実現させる主体」として扱われることがあります。

形容詞

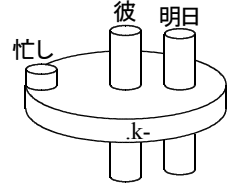


彼₀₁は経済に明るい
図S2-24 場の名詞

→
主体化

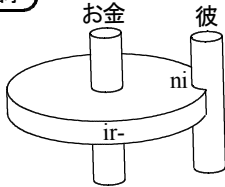


彼₀₁は経済が明るい
図S2-25 場の主体



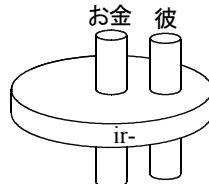
彼₀₁は明日が忙しい
図S2-26 時の主体

動詞

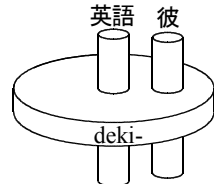


彼にはお金が要る
図S2-27 場の名詞

→
主体化



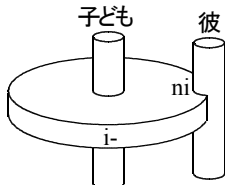
彼₀₁はお金が要る
図S2-28 場の主体



彼₀₁は英語が出来る
図S2-29 場の主体

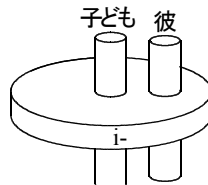
「要る」:古語では「入る ir-u」で、「必要物にはいる」の意味。

「出来る」:古語では「出現する」の意味。

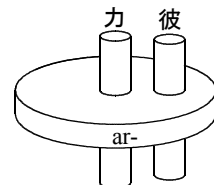


彼には子どもがいる
図S2-30 場の名詞

→
主体化



彼₀₁は子どもがいる
図S2-31 場の主体



彼₀₁は力がある
図S2-32 場の主体

「彼₀₁は子どもがいる」「彼₀₁は力がある」は本主体・属性主体でも考えられます。

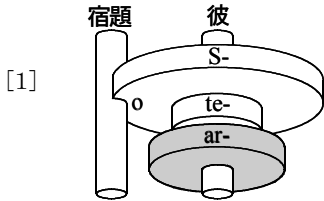
問S2-7 「彼は子どもがある」は可。「彼は子どもが持っている」はなぜ不可？

hs⑤ テアル複主体

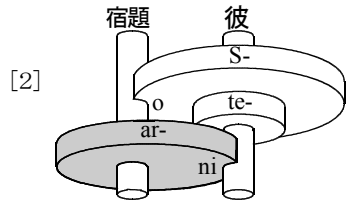
動詞主体 客格主体

AはBがーてある

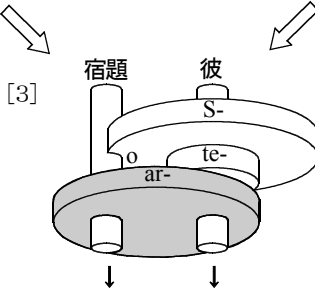
「～を[動詞]てある =te-Ø=ar-」の中の動詞「ある」に対して複主体が立ちます。「動詞主体」と「客格主体」です。



動詞客体 ar-主体 (動詞主体)
 図S2-33 彼₀₁は宿題をしてある



(客格主体) ar-主体 動詞主体
 図S2-34 彼には宿題がしてある



ar- を合一化します。

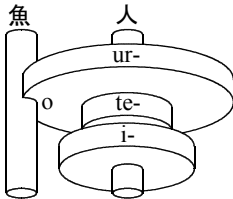
「ーてある」は結果状態の局面を表します。

(客格主体) ar-主体 ar-主体 (動詞主体)

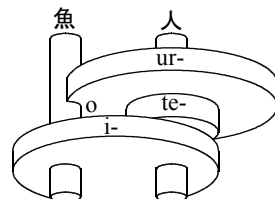
図S2-35 彼₀₁は宿題がしてある

Bがーてる

「あそこで魚が売ってる。」という文もこの構造です。上記[2]の構造がなく、動詞も ar- でなく-i なので、形だけ[3]にしていることになり、俗語的です。動詞主体が表現されず、「ている」が「てる」となる傾向があります。



図S2-36 人が魚を売っている



図S2-37 夫₀₁は魚が売ってある

問S2-8 「彼はタクシーを呼んである」の「を」はなぜ「が」に換えられるのですか。

hs⑥ 数量複主体

主体 数量主体

次の文では「学生」は主格にあります。「3人」は何格でしょうか。

学生が 3人 走る。

次のようにも言えます。

学生, 3人が 走る。

それで、「3人」も主格にあることが分かります。

とはいえ、両方を「が」で表すことはできません。

*学生が 3人が 走る。

一方を「0₁」にする必要があります。

学生が 3人0₁ 走る。

学生0₁ 3人が 走る。

「は」をつけて次のように言うこともできます。

学生0₁は 3人0₁ 走る。

学生0₁は 3人が 走る。

つまり、先に具体的な名詞を置き、そのあとにその名詞を数量で表現する場合、両方の実体は同一の属性(hasir-)に対して、ともに同じ格(ここでは主格)にあることになり、この両者は複主体であることになります。

しかし、まったく同じ主格ではないので列挙詞「と」で結ぶことはできません。

*学生と3人が走る。

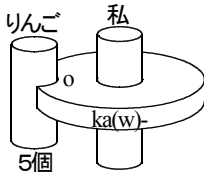
2主格は別の種類の主格なので、「学生」のほうを「主格・主体」とよび、「3人」のほうを「数量主格・数量主体」とよび、この複主体を「数量複主体」とよびます。

ただし、数量主体が先になることもあります。

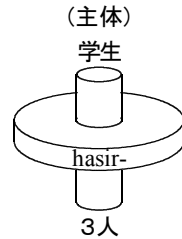
3人0₁ 学生が 走る。

以上のようなものの例として、「りんごが5個ある。」「子どもが2人いる。」「仲間がたくさん集まる。」などを挙げることができます。

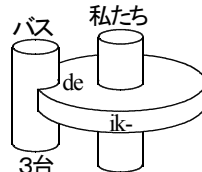
なお、数量を表す実体は客格にある場合もあります。



図S2-39 りんごを5個買う／りんご5個を買う



(主体)
学生
hasir-
3人
(数量主体)
学生が 3人0₁ 走る
学生0₁ 3人が 走る
図S2-38 数量複主体



図S2-40 バス3台で行く

問S2-9 「りんごを5個買う」のように「バスで3台行く」と言えないのはなぜ？